

2021年大発会

1月4日、2021年のスタートを切る大発会を行いました。

福岡市内の会員証券会社の方々をはじめ、市場関係者約25名の皆様にご出席をいただきました。小田原理事長が年頭の挨拶を行い、引き続き理事長の音頭により、証券市場が益々活況を呈しますよう祈念して、吉例の「博多手一本」を入れました。



理事長挨拶
(2021年大発会)

皆様、新年明けましておめでとうございます。2021年、令和3年の年頭にあたり、一言ご挨拶申し上げます。

昨年は、大納会でも申し上げましたように、話題といえば新型コロナというべき年であり、内外ともに、社会経済活動が大きく停滞をみせた一年となりました。

一方で、株式市場は、あたかも先行き経済の回復を先取りするかのようになり、コロナの感染が広がりを見せた春先の急落から、年後半には大幅な回復をみせ、大納会での終値はバブル期以来の高値でした。

さて正月といえば干支の話になりますが、今年は辛丑（かのと・うし）にあたっています。

辛（かのと）は、植物の成長でいえば、古い植物が枯れ、新しい世代が生まれようとしている状態を指すことだそうです。

また、丑（うし）の方は、糸へんをつけると紐（ひも）となり、植物の芽が種の中で紐のようにからみあって、伸びようとしている状態を指しているといわれています。

いずれにしても、新しい世代が生まれようとしている直前のようです。

このように、干支から見ると今年は、新たな芽生えが着実に生まれる状態にあるが、ある程度、時が必要であり、ある程度、我慢しなければならない年を暗示しているのかもしれない。

一方、皆様ご存知のとおり、ニューヨーク・ウォール街では、相場が上昇・強気のときに、Bull（ブル）、すなわち、「雄牛（おうし）」が例えに使われます。これに従うとすれば、今年も昨年後半からの強気相場が継続していくのかもしれない。

思えば、12年前の丑年は2008年のリーマンショックの翌年であり、市場が過度の悲観から脱し始めた時期であり、本年もそのようになればと願っています。

新型コロナの状況は、まだまだ予断をゆるさないこの2021年の状況ですが、引き続きの自粛と、本年前半には、我が国でもコロナワクチンの接種が順次開始される見込みであり、それを通して、コロナ感染症の先が見通

せる状態となって、時代の要請であるデジタル化の促進と、グリーン社会の実現と相まって、内外経済が順調に回復し、願わくは7月からの東京オリンピック、パラリンピックが無事開催され、実体経済の回復がより加速されることを願っています。

また福岡に目を向けましても、天神ビックバンや博多コネクティッドにより、ハイクオリティなオフィス環境、商業施設が次々に整備されようとしており、一方では本年は北九州で世界体操と世界新体操選手権が同時開催され、さらに来年は福岡で世界水泳選手権が開催されます。

それらに伴い、福岡への国際金融機能誘致の気運も盛り上がりを見せ、九州を中心としたこの地域の経済が活気を取り戻す、その足がかりとなる1年になればと期待いたしています。

いずれにいたしましても私共、福岡証券取引所といたしましては、昨年は延期を余儀なくされた諸事業につきまして、ウェブ形式での開催など新しい方法も模索しながら、徐々に軌道に乗せていきたいと思っています。

また、昨年はなかった新規上場の実現に向け、尚一層の努力を重ねて参る所存でございます。

私共、役職員一同、皆様方との連携・協力を一層強固なものにしながら、「地域になくてはならない取引所」として、微力ながら、九州を中心としたこの地域の経済発展に力を尽くして参りたいと思っています。

どうか、本年も福証の取り組みに対し、ご支援・ご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。